

きりたんぼラウンド in Akita

H27. 1. 9

秋田県スポーツ科学センター

昨年度に引き続き4回目の秋田県ラウンドは、県内はもとより、岩手県・山形県からもご参加をいただき、総勢38名で開催することができました。開催にあたり各方面からご協力に対しまして心より感謝いたします。



1 話題提供 「第35回秋田県学校体育研究大会秋田大会に向けて」 「県内の授業実践より」

第35回秋田県学校体育研究大会横手大会実行委員会より、開催に向けた話題提供がありました。

「豊かなスポーツライフの実現に導く体育学習」という大会テーマをもとに、「運動する楽しさとできる喜びを実感させ、自ら求めて運動する児童・生徒の育成～習得と活用を核とした確かな指導で確かな学力を～」という研究主題の紹介がありました。

特に、小・中・高等学校が連携を図りながら研究を進めていくということや単元構想図を核とした「指導と評価の計画（単元計画）」の充実を図ることが挙げられました。横手市体育研究会では、平成23年1月の同会冬季研修会で、佐藤豊教授（当時教科調査官）より、単元構造図に関する解説をいただいたことも紹介されました。

湯沢雄勝体育研究会では、小・中学校共に「体づくり運動」の授業研究会を実施した内容が報告されました。小学校の取組としては、小学校5年生の取り組みが紹介され、トレーニングにならないように配慮された内容で、児童が楽しく運動に取り組む様子が紹介されました。

中学校での取組では、体力を高める運動において、組合せを中心とした学習が紹介されました。授業者が今年度の子供の体力向上指導者養成研修に参加し、学んで内容が子どもたちに還元されている様子が伺えました。



2 グループ協議

話題提供を受けて、「体育学習における技能（運動）、態度、知識、思考・判断の指導」について話し合われました。

（話し合い内容の抜粋）

- 指導と評価の計画（単元計画）を作成する際に、態度の内容をしっかりと盛り込み、身に付けたい内容を意識することが大切ではないか。
- 技能重視となりがちであるため、4観点で何を教えるべきかを考えていく。
- 思考・判断の評価は、学習の振り返りから、見取ることができるのではないか。見取るため学習カードの工夫が大切である。
- ねらいをはっきりした上で、評価の観点を考えるべきである。



3 情報提供 高橋修一教科調査官より

高橋修一調査官より、「今後の体育に関する情勢」について、最新的话题を御提供いただきました。体育・保健体育を通して、どのような子どもたちを育成していくのかという視点が大切だということ。未来の社会を生き抜く子どもたちにどのような力を付けるかが大切であるという視点に立って体育を考えるという御講話をいただきました。



4 まとめ 佐藤 豊教授より

佐藤豊先生からは、大会テーマとの関連から、以下の内容に関するお話がありました。

- 中教審で議論されているキーワード
- 学習指導案作成までのチェックポイント
- 評価方法の工夫・改善
- 態度の体系化
- 運動やスポーツを通して育てたい態度とは
- 体育、保健体育における道徳性を育成するには
- 高等学校保健体育科の使命（ミッション） 等

